

⑤ ICTを活用したコンテナ物流高度化事業（CONPAS）

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局

キーワード ゲート前混雑の解消、コンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮、コンテナ物流の効率化、生産性向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

情報通信技術の活用によりコンテナターミナルのゲート手続きやヤード内荷役作業の効率化を実現する取組。ICTを活用したコンテナ物流高度化事業（CONPAS）を開発したことにより、ゲート前混雑の解消やターミナル滞在時間の短縮が図られた点や、コンテナ船の大型化に伴う課題解決に向けたシステムの成果であることが評価された。

1. はじめに

横浜港南本牧コンテナターミナルにおいて、新・港湾情報システム「CONPAS (Container Fast Pass)」の開発を行い、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ったものである。

2. 事業の概要

本事業は、横浜港南本牧コンテナターミナルにおいて、新・港湾情報システム「CONPAS」の運用方法や効果を検証したものである。また、検証結果を踏まえ、横浜港や他港のコンテナターミナルそれぞれの特性に合致した形でCONPASの導入（横展開）を図るものである。

ゲート前混雑が深刻化する中、情報通信技術の活用により、ゲート手続やヤード内荷役作業の効率化を実現す

るため、平成28年度から横浜港において試験運用を実施し、令和3年4月から本格運用を開始した。今後は、他ターミナルでの試験運用を進め、CONPAS導入の拡大を図る。

3. 事業の成果

コンテナ物流においては、荷主、海貨事業者（フォワーダー等含む）、コンテナターミナル事業者、陸運事業者等の多くの事業者が関係し、それぞれの事業者において業務の最適化を図り進められている一方、場合によっては、個の最適化が全体の最適化に繋がらない場合がある。

このため、本事業では、それぞれの事業者の実務を詳細に把握したうえで、各事業者間の調整や地道な検討・検証を繰り返すことで、個および全体の最適化を担保しつつ、ゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を実現する仕組み（技術）を実現した。この取組みにより関係者の業務が効率的になるなど、生産性向上に大きく寄与している。

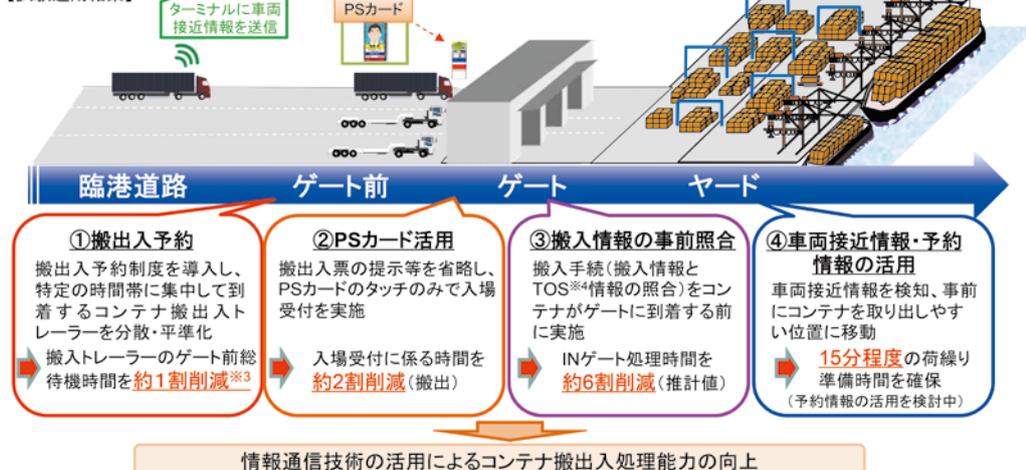
本事業を実施することで、ゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮が図られ、コンテナ物流の効率化及び生産性向上が実現する。

4. おわりに

コンテナターミナル周辺での混雑問題は、コンテナ物流に携わる関係者が解決出来ない長年の課題であった。本事業は、当該課題の解決に向け、着実な成果を上げており、更なるCONPAS導入ターミナルの増加やCONPAS利用者の増加に伴い、より大きな効果の発現が期待されている。

- CONPAS※1は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることで、コンテナ物流の効率化及び生産性向上の実現を目的としたシステム。
- ゲート前混雑が深刻化する中、情報通信技術の活用により、ゲート手続やヤード内荷役作業の効率化を実現するため、横浜港において試験運用を実施。
- 横浜港で2021年4月より本格運用※2を開始。横浜港での運用結果を踏まえ、今後他港へも拡大予定。

【試験運用結果】



※1 CONPAS: Container Fast Pass の略
 ※2 「搬出入予約機能」「PSカード活用した受付機能」「搬入情報の事前照会機能」を常時運用すること
 ※3 搬入トレーラーの14%が CONPASで予約を行った場合
 ※4 ターミナルオペレーションシステム

CONPASの概要